



2022年10月15日
第687号

1部10円(組合員は組合費に含む)
郵便振替00960-7-111274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka (EWA)
発行人 増田 俊道
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

社会保険制度の適用拡大で共済加入と脱退

22年10月から国民年金法等の一部改正により、健康保険・厚生年金保険の適用対象が拡大されることとなりました。具体的には、週あたり労働時間が20時間、勤務期間が2ヶ月を超える見込みの労働者が健康保険へ加入することとなります。しかしながら、これらの条件を満たして新たに健康保険に加入する労働者は、学校現場ではそう多くはないでしょう。のことよりも、同時に施行されることとなつた改正公立学校共済組合法により、多くの臨時的任用職員が影響を受けることとなりました。

臨時の任用は日本年金機構への移行でバタバタ

共済組合?年金基金?

改正された公立学校共済組合法では、厚生年金保険にあたる長期給付の対象者から臨時的任用職員を外しました。そのため、育休代替等を除く多くの臨時的任用職員が共済組合ではなく日本年金機構に移行する必要が生じています。臨時的任用職員についてはいわゆる「空白の一日」が解消された2020年度から共済組合への加入が行われたところですが、わずかな期間で再び移行することになりました。また、育休代替等については共

済組合の対象者となるため、年度ごとに臨時的任用と育休代替を移動するような場合には、加入・脱退が繰り返されることになります。

消える3階部分?

この移行に伴って生じる変更として、退職等年金給付(3階部分)が日本年金機構にはないため、掛金負担がなくなります。しかし、これは同時に年金受給時に3階部分の支給がなくなることを意味しています。一年以上の掛金負担があった場合は支給対象

となります。一年に満たない場合、つまりこの4月から初めて臨時的任用として働いた場合などは掛金の返還はないとしています。年度内の方的な制度変更により、支給されるあてのない掛金を支払わせたのは大きな誤りです。

その他にも、日本年金機構では掛金徴収が翌月徴収となるなどの変更があります。10月分の掛金負担がなくなったのではありません。

いずれにしても、制度がより複雑になっています。ねんきん定期便などしっかり確認しましょう。

酒井さとえ(書記長)

反対の世論を無視して「国葬強行」

9月27日、幅広い反対の声を無視して、岸田政権は安倍氏国葬を強行実施しました。教育合同は、やめろ!安倍国葬実行委員会に賛同し、9月9日にエルおおさかで開催された緊急集会「闘いの中で私たちは訴える!」、および、9月27日に中之島・水上ステージ前で開催された「安倍国葬やめろ!」の集会とデモに参加しました。また、9月19日に「しないさせない戦争協力関西ネットワーク」など5団体が主催した、PLP会館の、「安倍元首相の国葬反対!大阪集会」にも参加しました。いずれの集会も、会場はあふれんばかりの満員で、集会もデモも「国葬反対」の熱気があふれていました。



国葬強行の背景

国葬が強行された背景には、安倍政治を引き継ぐ岸田首相が、国家権力を縛るはずの憲法を軽視し、国会での議論もなく、安倍氏と旧統一教会との関係の調査もせず、安倍氏がすすめてきた「戦争する国」への道を正当化し、「モリトモ・カケ・サクラ」問題など政治権力の私物化をなかつたことにしようとする意図が見え隠れしました。

弔意強制は違憲

弔問外交などというプラス面も語られましたが、人の死を政治利用する態度は厳に慎まなければならないはずです。当初は、政府からの「国民」への弔意強制も懸念されましたが、7月12日に行われた安倍氏の家族葬の際に、吹田市など地方自治体が学校へ半旗掲揚の要請を行ったことに対して、組合と市民団体が幅広く連帯して申し入れや抗議行動をおこなつたこともあって、9月27日には政府からの半旗掲揚や弔意強制は避けられました。それでも、産経新聞によると、大阪府内では大阪府をはじめ大阪市・堺市・東大阪市など、13の市町村が弔旗(半旗)掲揚をおこなつたそうです。

平和と人権の教育を

「聞く力」「ていねいに説明する」を標榜していた岸田首相の化けの皮は剥がれました。学校・教育現場においても、安倍元首相がすすめ岸田首相が受け継いできた、「愛国心」教育による排外主義、旧統一教会などの介入による性教育の否定などを、この機会を逃さずに見直し、教育労働者として国際平和主義と基本的人権の保障に基づく教育を拡大していきましょう!

増田俊道(執行委員長)



失われた30年 旧統一教会はなぜメディアから消えたか

10月1日、エルおおさか南館ホールで「戦争教科書」はいらない！大阪連絡会主催の集会が開かれました。

第1部は永年、旧統一教会問題に取り組んでこられた有田芳生さんからの講演がありました。安倍晋三元首相暗殺事件の背景、旧統一教会の歴史、自民党議員の関わり、旧統一教会の教育問題への介入、韓国との関係について詳しく報告がありました。とりわけ、1973年5月の朝日新聞社襲撃事件の赤報隊とのつながりはこれまでの日本の事件の闇に迫る話でした。会場からは統一教会の解散問題、天皇制との問題について等の質

問がありました。
教科書採択をめぐる状況と今後の課題

右派の台頭が教科書採択にどのように影響するのかと題して伊賀さんからの報告がありました。今回の参院選での右派勢力の動向、とりわけSNSの活用で若者層からの支持で票を伸ばした参政党に注目と警戒が必要で、石川県での教科書採択に神谷宗幣の動きが深く影響していたとの指摘がありました。その他にも、性教育バッシング、道徳の教科化を推し進めた下村博文元文科大臣の旧統一教会との問題、維新とのつながりも指摘がありました。今後、公民、



道徳教科書のジェンダー記述にも注視していくとともに、私たちの身近なところにも草の根右翼の動きがあることを警戒しなければいけないと警告されました。

教科書に登場した投資教育と自己責任

続いて、相可さんからの報告は新教科「公共」や家庭科に、18歳からの株への投資を促す記述や金融商品の資産運用の記述があるとの指摘があ

りました。儲け優先、失敗しても自己責任という岸田首相の唱える「新しい資本主義」の新自由主義的狙いが起業と投資の勧めであることの実態が指摘されました。

山口昌孝（書記次長）

当面の日程

- 10.22. (土) 13:50 エルセンター(2F)
とめよう！戦争への道 講演会
- 10.28. (金) 18:00 組合事務所
「戦場の女たち」無料上映学習会
- 10.29. (土) 14時 エルおおさか709
大阪ネット総会・集会
黒田伊彦ピデオ講演
- 11.3. (木) 14:00 扇町公園
かがやけ憲法！トークセッション・パレード
- 11.6. (日) 14:00 国労大阪会館
丁章 チョン・ジヤンさん ZAZA 講演会

官製ワーキングプア集会へ

第10回なくそう

官製ワーキングプア大阪集会
10月30日（日）ドーンセンター
「問われる公共サービスの

営利企業委託」

～本当に安いのですか？

委託金の流れを検証する～

午前中は分科会、午後からは全体会になっています。

分科会(10:00~12:00)は、
○会計年度任用制度その問題

点と解決の方向を考える。

○非正規労働者の解雇・ハラスメント・ジェンダー・均等待遇を考える。

○公務非正規の現状を自治体職員と考える。

の3つに分かれています。

午後の全体会(13:00~16:45)のプログラムは

- ①たたかいの現場からの報告
- ②ミニ学習会

会計年度任用職員の任用期限問題。教育合同から酒井書記長が「不当労働行為救済申立て」の報告をします。

- ③特別報告

維新、府・市政14年間で大阪の自治体はどう変わったかを、調査結果の分析から報告をします。

- ④シンポジウム

集会のテーマを「質」「委託費の実態」「サービスの担い手」の3点から、講演、事例報告、ミニシンポジウムを通して検証していきます。

本集会が、公共サービスの企業委託の問題点について考える機会になればと思います。

田邊岸代（執行委員）

EWA
10月11日付毎日新聞デジタル掲載の「国葬参加者は男性ばかり？・・・」を紹介する▼国葬の会場となつた武道館で、女性トイレの列は無いのに男性トイレには50人く

らいの列▼国葬招待者の殆どが男性だからで、日本社会の性差別の現状を映し出した▼行列を見た政治家が漏らした「まづい...」というのは、この「現状」に対してではなく、単に漏らしそうになったからだろう。

カードを掲げて歩いていく。見たところ、中高年のヒスパニックやアジア系が多く、プラカードを抱えて腰をおろしている人もいた。交替で歩いているかも知れない。仕事を掛け持ちはいる労働者が多いのだろう、スローガンはOne job should be enough、1つの仕事で生活するに足る給与をという賃上げ要求である。記録的なインフレが報じられるアメリカの中でもサンフランシスコは届指の物価の高さで知られている。

アメリカの全国ニュースでも報じられたが、紹介する紙幅はない。

わたしは、その光景を写真におさめるとともに、ささやかなエールを送り、チェックインへと急いだのであった。（紫ワニ）



文化おちこち (249) サンフランシスコ・バイリア通説

(6) サンフランシスコ国際空港レストラン従業員がストライキ決行

2022年9月28日の便で、筆者は日本に帰国している。その前夜、搭乗予定の航空会社から、当日はレストランが臨時で閉鎖するので、早めに空港に来る事と、保安検査に引っかかるらしいような軽食の持参をおすすめします。なお、機内食は提供しますという旨の電子メールが入ってきた。空港に到着して事情を了解した。本連載1回目で紹介した成人学校のESL（英語を第二言語として学ぶクラス）の級友だったブラジル人の友人が車を出してくれて空港まで送ってくれたのだが、ちょうどその降車エリアで、レストラン従業員のデモ行進がおこなわれていたのだ。

そう、レストラン一斉休業はストライキのためであった。デモは、国際便ターミナルの複数ある入口の間50メートルほどの空間を、楕円状の隊列で、プラ